『浄土真宗の葬儀』

私たちの一生には、様々な節目があります。

「誕生・入学・卒業・成人…。還暦・米寿・卒寿…」など、そして葬儀は、その人生の最期を締めくくる、極めて大切な儀式です。

しかし、最近、「直葬」「ゼロ葬」など、葬儀を行わない、という話を耳にするようになってきました。私たちは、葬儀を勤めることを通し、亡き人を想い、亡き人の「死」を無駄にしないことを知らされるのです。

仏教とは仏の教えと書きますが、私たちが仏になる教え（成仏道）です。

医学がめざましい進歩をとげ、科学が発展し、ものがあふれています。

しかし、二五〇〇年前、お釈迦さまは八〇歳で涅槃に入られ、七五〇年前、親鸞さまは九〇歳でお浄土へ還られました。

医学や科学が現代とは比べものにならない時代です。しかし、私たちの「いのち」の問題は、今もあまり変わっていません。

生まれてきたものには、必ず死が訪れます。しかし、死んで終わりの「いのち」ではありません。

阿弥陀如来の前でお葬式をすることは、死んで終わりの人生ではない。お浄土へ生まれていく道が用意されてある、という教えに出遇うことです。

阿弥陀仏は「我にまかせよ、必ず救う」と、この私に届いて下さっている。

この阿弥陀仏のはたらきに依らなければ、私のいのちは救われないのです。

人間の力、医療や科学では、いのちの根本問題は解決しません。

阿弥陀如来は「南無阿弥陀仏」と私に呼びかけておいでになります。お念仏は「いつでも、どこでも、誰でも必ず救う我にまかせよ」と私を喚ぶ声です。

親鸞聖人は「生死の苦海ほとりなし　久しく沈めるわれらをば　弥陀弘誓の船のみぞ　乗せて必ず渡しける」とご和讃に謳われます。

思い通りに生きられない人生、必ず終わっていかねばならない「いのち」ですが、阿弥陀如来の誓いに遇えば、必ずお浄土に生まれる安心の人生を生きることが約束されるのです。

仏さまをお迎えして葬儀を行い、「亡き人の死を無駄にしない」と云うことは、私の救われていく「真実の教え」に出遇わせていただく、大切な機会をいただくことなのです。